

だが、今後はますます情報の速報性が求められていくでしょうね。

**松井さん**

その大雨の時に感じたのは、テレビで流れている降水量などの一般的な情報

以外にも、もっと詳しい地域の情報が欲しいということでした。特に子どもを持つ身として、学校の休校情報などがホームページやフェイスブックで見られたら良かったなと思いました。やっぱり市民は、災害が起った時に、市の情報を頼りにしていますから。



**市長**  
お話にもありましたが、災害時に市民の命を守るためには、スピード



感のある対応が大切だと考えています。そのためにはインターネット情報の充実も必要ですし、防災無線を受信できる防災ラジオや、緊急速報を携帯電話に知らせる「エリアメール」なども活用し、迅速で的確な情報発信に努めていきます。

**松原さん**

「とまレポ」に参加して気付いたことは、広報紙を読む人や、フェイスブックを見る人がいて、それぞれ何から情報を得るかはバラバラなので、全員に同じように伝えるのは難しいということです。私は広報紙を読んでいます。同世代のお母さんたちでは読んでいない人も多々います。広報紙は、私のような小さい子どもがいる世帯にとって役立つ、子育てイベント情報や、休日の当番病院などたくさん掲載されているので、読まないのはもったいないと思いますね。



**石川さん**  
私も広報とまこまいをいつも読んでいます。活字に慣れ親しんでい



る世代なので、紙の情報には安心感があって、とても頼りにしていますよ。最近の広報紙は、表紙がカラーになって見やすくなり、タイトルもローマ字でハイカラになったので、私の周りではとても好評ですよ。

**杉野さん**

苦小牧市は、ホームページやフェイスブックなど、ツールごとに役割がしっかりとおありで良いですね。それをうまく活用し、苦小牧の情報を発信することで、子どもたちが、自分の住んでいるまちについて興味を持ってもらえると思います。自分のまちについて知ることができるといいですね。



**市長**  
近年、活字離れが進んでいると言われているのですが、広報紙については大切に読んでくれているという人もまだまだ多いんです。一方で、ホームページやフェイスブックは、子どもや若い世代が地域の情報に触れるツールとして非常に有効なので、どちらの媒体も、さらに魅力的に充実させていく必要があると感じています。

**市のいろいろな情報発信**

市では、市民の皆さんに必要な情報を伝えるため、様々な方法を使って情報発信をしています。

**広報とまこまい**

毎月1回発行し、市内の全世帯にお届けする大切なまちの情報紙です。「とどけます まちのこえま



ちの いいとこ」をコンセプトに、市の政策やイベント情報、市民の皆さんの声など、苦小牧の今をお届けしています。皆さんの手にとってもらえるように平成25年4月から、現在のようなインパクトのある表紙にしました。

**市公式ホームページ**

各課の担当がリアルタイムで更新することで、最新の情報を広くお届けしています。平成26年2月に、文字の拡大や音声読み上げ機能、とまこまいホームページへの表示切り替え機能などを追加し、障がいのある方や高齢の方など誰もが使いやすく、親しみやすいページにリニューアルしました。